



箱根教育合言葉～箱根を愛し、かしこく、やさしく、たくましく～

先日、湘南ベルマーレの方からヒマワリの種を頂きました。これは、多くの被害を受けているウクライナへの支援を目的とした「ひまわりプロジェクト」という活動の一つです。担任からその意味を伝えられ、子ども達なりにその思いを感じながら植えていきました。時間が経つとメディアからの情報も少なくなり、私達もつい「他人事」になってしまいます。この活動を通してもう一度「自分事」と捉え、関心を持つことの大切さを感じました。なかなか終わらない戦争に対して子ども達がどうしたらよいか？を話したことがありました。「ロシアばかり爆弾とか落とすからウクライナもやった方がいいんじゃないかな。」「でもそうしたらどんどん戦争がひどくなるから違う国まで戦争が広がっていくかも。日本もそうなったら嫌だよ。」「そうか〜。」みんなが困っていると「みんなで歌ったり踊ったりすればいいんじゃない？」とじっと考えていた友達がそう応えました。この応えに納得する子もいれば「それでうまくいくのかな」という表情の子もいました。保育者は人を傷つける言葉以外は否定も肯定もしません。「なるほどね。」と頷いています。だからこそ、一人一人が自分で考え自分の言葉で表現できると感じています。きっとこの子は友達と歌ったり踊ったりした時の楽しさを知っているからその応えが出てきたのだと思います。

そして、子どもの言った「歌ったり踊ったり...」はあながち嘘ではありません。第1次世界大戦の最中のクリスマス夜の夜にドイツ軍が歌い出した「きよしこのよる」をきっかけに、敵のイギリス軍と讃美歌を歌いあいクリスマスの日には上着を丸めて作ったボールでサッカーをし1日だけですが、休戦をしたということがあります。残念なことに、その後も戦争は4年も続いたそうですが、ここでクリスマスを祝った兵士たちは、国を大きくするための戦争よりそれぞれには大切なものがあることがわかったそうです。想像力を働かせながら、相手の立場になって考え、言葉を伝え、行動をすること。子ども達には、日々の体験の中で身に付けていってほしい力の一つです。いえいえ、こんな言葉を伝えられる子ども達は既に身に付いているのかもしれないね。大人として、自分自身の言動に気をつけたいです。

ウクライナの国花は「ひまわり」です。ひまわりのようにウクライナの子ども達がたくましく生き生きと過ごせることを願って大事に育てていきます。

廃品回収のご協力ありがとうございました。

今年度、第1回目の廃品回収を5月18日に行ないました。子ども達は、箱根幼稚園のお揃いのTシャツを着て、朝から張り切り園に集まった空き缶や段ボール、新聞紙などを玄関先まで一生懸命運び出しました。自分の体よりも大きな荷物を運び、何とも頼もしかったです。持ってきてくださった方や業者の方にいつの間にか覚えた「ご協力ありがとうございます。」の言葉でお礼を伝えていました。段ボールや空き缶を捨ててしまえばただのゴミになってしまうけれどこうしてリサイクルすることで新たな資源になるということを伝えると、年長児が「SDGsだね。と...。一つ一つの体験が積み重なり確かな知識になっていくことを感じます。

アルミ缶が以前よりも倍の値段で回収していただけたこともあり、20,010円の収益になりました。いつもありがとうございます。次回は9月14日になります。



おおきなあれ！やさいたち

旧箱根小学校の畑を耕し、今たくさん野菜の苗を育てています。畑を広げたいとお願いをすると、杉山さんや坂場さんが一緒に手伝って下さいました。この日、参加できなかった子ども達は、どんな畑になったのかが気になり、自分で確かめに向かいきれいに耕された畑を見て「わー。すごい。私達が通れる道もつくってくれたの？」と言っていました。野菜の苗植えでは、大澤さんも加わって頂き、田中さん、勝又さん、坂場さんからお裾分けいただいた、かぼちゃ・ブロッコリー・里芋・落花生・キュウリなどの苗を植えました。1年生がいたころ、植えたジャガイモや玉ねぎももうすぐ収穫を迎えられそうです。「落花生は花が咲いたらマルチをどかしてね。花が落ちた先が伸びて土にもぐり、土の中で豆ができるから。だから、落花生というのよ。」「手間暇かけた分美味しい野菜が育つけれど、甘やかしすぎもだめなのよ。」放任と過干渉はいけません。まるで子育てのよう。野菜作りは奥が深いです。

